



本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇各教科の学習の中で、自分の考えを互いに交流させることによって、さらに考えを広げ深める力を継続的に育成する。</li> <li>◇習熟に応じた指導や補充的な学習・発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の一層の充実を図る。</li> <li>◇地域の特性を生かした取り組みや、SDGsを意識した体験活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇年間指導計画・評価規準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。</li> <li>◇2年生以上では、習熟度別算数指導を実施し、東京ベシック・ドリルを活用するなど、個に応じた指導を実践する。</li> <li>◇モジュール授業を活用して、国語における基礎的な学習内容の確実な定着を図る。</li> <li>◇学力調査の検証を全体で共有し、授業改善プランに基づく指導内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇研究主題「自他のよさを認め合い、深く考え、行動できる児童の育成～様々な人々との関わりを通じて～」を基に、課題解決に向けて深く考え、主体的に行動できる児童の育成を図る。</li> <li>◇地域の人材と環境を生かした3つの柱「学習連携」「安全連携」「行事連携」を推進する。</li> <li>◇教職員による特別支援教育の研修やICT研修、特活研修を定期的に行い、授業力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇指導と評価の一体化により、PDCAサイクルの充実を図り、授業改善、学習改善につなげる。</li> <li>◇各教科では、授業ごとに評価すべき観点を整理し、評価計画に基づき、適切な評価をする。</li> <li>◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇教育活動の様子や児童の変容等を保護者会や学校だより、ホームページ等を通して情報発信する。</li> <li>◇地域環境の特徴を踏まえ、公共施設や地域人材を活用した授業づくりの充実を図る。</li> <li>◇保護者、地域、学校評議員による外部評価を実施し、教育課程編成へ生かす。</li> <li>◇道徳授業地区公開講座も含め、学校公開日を年複数回設定し、保護者や地域に公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇校区別協議会において、「目指す15歳の姿」を明らかにした上で、小学校と中学校の交流と相互理解の充実を図る。</li> <li>◇「交流」「学力向上」「心の教育・不登校対策」「体育・健康」の4つの部会で連携を深める。</li> <li>◇授業体験や部活動見学、児童・生徒交流などを実施し、豊かな心の育成と中学校へのスムーズな接続を目指す。</li> </ul>

令和5年度 授業改善推進プラン<学年別>

学校名

練馬区立立野小学校

1年	課題分析	授業改善策
国語	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拗音・長音・促音・濁音・半濁音を文字に表すと、字を間違えてしまう児童がいる。特に促音を抜いてしまう児童が多い。</li> <li>○文を書くときに、「は」「を」「へ」を「わ」「お」「え」と間違えてしまう児童がいる。</li> <li>○句点と読点の違いを判断できず、正しく表記できない児童がいる。</li> </ul>	<p>【正しく覚える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手拍子を用いて音と合わせて理解できるようにする。</li> <li>○拗音・長音・促音・濁音・半濁音の有無で意味が変わってしまうことを理解させる。</li> </ul> <p>【文の構成を考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「は」「を」「へ」から文の構成を考えさせ、句点、読点を用いながら書き間違えないように意識させる。</li> <li>○マスを使い、正しい位置に句点、読点を表記できるようにする。</li> </ul>
算数	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章問題を読んで加法か減法か判断できず、正しく立式できない児童がいる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どちらが長い直接比較ではなく間接的に比較することが困難な児童が多い。</li> </ul>	<p>【具体物の操作】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブロック等を用いて具体的操作を繰り返し行い、どのような式が正しいか判断できるようにする。</li> </ul> <p>【体験活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指の幅や色鉛筆、紙テープ等を単位とし、身の回りにあるものを用いて間接比較し、長さを比べる活動を重ねることで長さの概念を明確にする。</li> </ul>
体育	<p>【学びに向かう力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、運動に苦手意識を抱き、意欲的に取り組めていない児童も目立つ。</li> <li>○勝つことにこだわり、ミスをした友達に対して強い口調になったり、乱暴な言動が見られたりする児童がいる。</li> </ul> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単純な動きはできるが、複雑な動きや組み合わせで動くことは難しい。</li> </ul>	<p>【運動経験の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な動きを取り入れて基本的な技能や運動意欲を高める。よい動きの児童に手本を見せてもらったり、考えたことを発表し合ったりするなどしてよりよい動きを身に付けられるようにする。</li> </ul> <p>【言葉掛けの仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自他を大切にする言葉を選ばせたり、協力することの大切さを実感させたりして団結する楽しさを味わわせる。</li> </ul>

2年	課題分析	授業改善策
国語	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字が定着しない児童が多く見られる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「書くこと」について、経験したことを思い出したり、気持ちを考えることにつまづいてしまう児童が見られる。また、まとまりと順序を考えて、「はじめ」「中」「終わり」の構成で書くことは個人差が大きい。</li> </ul>	<p>【漢字の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字練習後の確認テストを定期的に行い、達成度を確認する。小テストのための漢字練習を増やし、間違い直しを必ずさせる。</li> </ul> <p>【書いて表現する学習の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行事や生活科の学習等で日記や作文などの書く機会を増やしていく。</li> <li>○書き方を提示し、確認しながら書けるようにする。</li> </ul>
算数	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長さや水のかさなどの単位の関係を理解するのが難しい。目的に応じた単位で表現することが苦手な児童が多い。</li> <li>○時刻と時間の区別がついていない児童が多い。とくに時刻と時刻の間の時間を計算することが苦手な児童が多い。</li> <li>○繰り下がり引き算につまづく児童がいる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○計算の仕方を説明する経験が足りない。</li> </ul>	<p>【体験的な活動を通して学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に測定する活動を充実させる。不十分なところは、家庭学習でも生活と結びつけて考えられるように課題を出す。</li> </ul> <p>【知識の日常化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「何分後の時刻は。」「〇時までの時間は。」等、普段の学校生活の中でも、時刻や時間を意識できるような声掛けを行う。</li> </ul> <p>【表現する学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別のコース毎の実態に合わせ、自分の考えを伝える時間を増やす。</li> </ul>

3年	課題分析	授業改善策
国語	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えや気持ちを筋道を立ててまとめることができない児童が多い。</li> <li>○考えたことを自分の言葉にして表現することが苦手な児童がいる。</li> </ul> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙が少なく、漢字の書き取りと読みが定着できていない児童がいる。</li> <li>○既習の漢字の活用ができない児童がいる。</li> <li>○全体として国語辞典の活用方法が定着できていない。</li> </ul> <p>【学びに向かう力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の内容を生活の中で生かすことを苦手としている。</li> </ul>	<p>【漢字の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時間の中で、練習や振り返りをする時間をより確保する。</li> </ul> <p>【書いて表現する学習の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モジュールの時間や週1回の日記を中心に文章を書き、表現する機会を作る。</li> </ul>
算数	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習学習を生かした説明ができない。</li> </ul> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○九九を覚えていない児童がいる。</li> </ul>	<p>【説明のための準備をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習学習を振り返る時間を設ける。</li> </ul> <p>【九九の反復練習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○計算相撲を中心に、九九が定着できていない児童が練習する時間を設ける。</li> </ul>

4年	課題分析	授業改善策
国語	<p>【知識・技能】 ○漢字を忘れやすく、既習の漢字を日常的に活用できている児童が少ない。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○文章を書くことが全般的に苦手である児童が多い。</p> <p>【学びに向かう力】 ○国語の授業全般に苦手意識のある児童が30%程度存在する。 ○活字に触れる機会が少ない。(読書量が少ない。) ○語彙力が乏しい。</p>	<p>【漢字の定着・見直し】 ○漢字など間違えたところの見直し、直しに関しては更に声をかけ、授業内(モジュールなども含め)で時間をとる。 ○2週間に1回、自学(家庭学習)を導入。 ○2週間に1回、絵日記(家庭学習)を導入。(A4で教室後ろに掲示する。) 【書くことの教え合い】 ○作文や新聞、絵日記の内容や漢字等の誤字・脱字チェックを教え合うことによって、「書くこと」全般を高め合わせる。 【活字に多く触れさせる】 他教科においても団体図書の活用回数を多く計画し、活字に多く触れさせる。 【楽しく学ばせる工夫】 ○友達と教え合う活動を多くとる。 ○国語教材の音読だけではなく、詩などの音読(群読)を定期的に取り入れる。 【語彙力アップ】 ○言葉カードの配布。(気持ちを表す言葉、形容詞など。)</p>
	<p>【知識・技能】 ○九九の定着や、繰り上がり、繰り下がり足し算・引き算が困難な児童が若干名いる。 ○単位変換や図形の角度など、既習事項を忘れてしまう子が多い。</p>	<p>【基礎・基本の定着】 ○計算相撲(5分間)を実施する。 ○児童の実態の把握と、既習事項の復習と定着。(特に九九)・・・九九カードも活用。 ○教材・教具の工夫(例:プリントを拡大、問題数を減らす、具体物などを利用して視覚的に分かりやすくする。)・・・必要な場合 ○教室・廊下の掲示物の工夫(いつでも大切なことを見て確認できる。) ○単元の狭間に、定着がよくなかった単元を復習する。</p>
5年	課題分析	授業改善策
算数	<p>【知識・技能】 ○計算に苦手意識をもっている児童がいる。ミスした問題を理解できるまで考え直したり定着するまでやり遂げたりする力が弱い。 【思考・判断・表現】 ○文章問題中の変化する2つの量の関係が捉えられず、正確に立式ができない。</p>	<p>【反復練習を行う】 ○毎回の授業の中で、計算問題に取り組む時間を確保する。また、個別の課題に応じて自身で必要な問題を選択できるように、ドリルパークを活用する。 【数直線の活用】 ○読み取った数を数直線に表し、それぞれの量の関係を視覚的に捉え、正しい式に結び付けるようにする。</p>
	<p>【知識・技能】 ○運動の特性に応じて、体をどのように動かせばよいのか、実際の自分の動きはどうなっているのかを自身で把握できていないので、課題を解決することが難しい児童がいる。 【思考・判断・表現】 ○運動を楽しんではいるが、チーム力や技能向上に向けた問題解決や表現力が十分でない。</p>	<p>【協働的な活動とICT機器の活用】 ○友達同士で見合ったり、教え合ったりする活動を積極的に取り入れる。その際、タブレット端末を活用し、動きを動画に撮ることで自分の体の動きを客観的に捉え、課題解決につなげられるようにする。 【学習過程の一貫性と方向性】 ○毎時間の学習のねらいを明確にし、めあてと振り返りに一貫性をもたせる。上手く表現できている児童を例に挙げ、どのようなポイントを意識して学習に臨めばいいのか方向性を示す。</p>
理科	<p>【学びに向かう力】 ○実験等の活動は意欲的に行う児童が多い。しかし、児童自ら問いをもち、自分で予想して実験を計画したり、話し合っ結果から考察したりすることが苦手であり、受動的な姿勢が見られる。</p>	<p>【課題解決の活動】 ○問題→予想→計画→検証(実験・観察)→結果→考察という問題解決の流れで学習を行う。その中で、予想と計画を立て、自分たちが考えた予想とどこが同じで違うのかを、根拠を用いて考察させていく。 【話し合い活動】 ○タブレット端末やノートなどを活用しながら、友達同士で発表し合い、その中で考察を進め解決につなげられる授業計画や場を設定する。</p>
6年	課題分析	授業改善策
国語	<p>【思考・判断・表現】 ○自分の考えが明確になるように、文章の構成を考えたり、筋道が通った文にしたりすることに課題がある。</p>	<p>【推敲】 ○推敲の時間を設定し、互いの文の良さや課題を見付け、伝え合えるようにする。</p>
	<p>【知識・技能】 ○理科の用語と意味の定着が不十分な児童がいる。 ○気体検知管などの実験操作が適切に行えない児童がいる。</p>	<p>【反復練習を行う】 ○ドリルパークを中心に復習を行い、適度な時期に小テストを行う。また、毎單元ごとに復習問題を行い、用語の定着を図る。 【実験操作の復習】 ○実験の手順をノートなどにまとめさせ、児童が主体となって実験を行えるように場を設定する。適宜、実験の復習を授業内で行っていく。</p>